

2024
JANUARY

No.37

鹿児島大学 同窓会連合会報



かごしま丸5年振り遠洋航海へ（パラオ）

特別
寄稿

「ゴジラ X SDGs」

松口 徹也（歯学部・教授）

ありがとうの人生

太田 芳明（工学部機械工学科 昭和43年卒業）

鹿児島大学同窓会連合会

鹿児島大学同窓会連合会会則

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、鹿児島大学同窓会連合会と称する。

(目的)

第2条 本会は、鹿児島大学の各学部同窓会（以下「各学部同窓会」という。）の連合組織として、鹿児島大学の基本理念の達成に協力し、その発展に寄与するとともに、会員相互の交流及び親睦を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 鹿児島大学との連携及び協力
- (2) 各学部同窓会間の交流及び連携の推進
- (3) その他本会の目的に沿った事業活動

(支部)

第4条 本会に支部を置くことができる。

第2章 会員

(会員)

第5条 本会は、次に掲げる各学部同窓会及び特別会員を持って組織する。

各学部同窓会

- 鹿児島大学法文学部同窓会
- 鹿児島大学教育学部同窓会
- 鹿児島大学理学部同窓会南明会
- 鹿児島大学医学部同窓会
- 鹿児島大学歯学部同窓会
- 鹿児島大学工学部同窓会
- 鹿児島大学農学部あらた同窓会
- 鹿児島大学水産学部同窓会魚水会
- 鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

特別会員

- 鹿児島七高同窓会

第3章 役員等

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 各学部同窓会からそれぞれ1名
- (3) 代表幹事 1名
- (4) 幹事 各学部同窓会及び鹿児島大学からそれぞれ1名
- (5) 評議員 各学部同窓会からそれぞれ4名
- (6) 監事 若干名
- (7) その他会長が認めた者

(役員を選任)

第7条 会長、代表幹事及び監事は、総会において選任する。

(役員の仕事)

第8条 会長は本会を代表して会務を総理する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 3 代表幹事は会務の執行を総括し、事務局を統括する。
- 4 幹事は本会と学部別同窓会との連絡調整を図るとともに、役員会及び幹事会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。
- 5 評議員は総会の構成員として、重要事項を審議する。
- 6 監事は業務及び会計の執行状況の監査を行う。

(役員の仕事)

第9条 役員の仕事は2年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員が生じた場合の補欠の役員の仕事は、前任者の残任期間とする。

(名誉会長及び顧問)

第10条 本会に、名誉会長及び顧問を置くことができる。

- 2 名誉会長及び顧問は、会長が委嘱する。
- 3 名誉会長及び顧問は、総会に出席し、意見を述べることができる。

第4章 会議

(会議)

第11条 本会の会議は、総会、役員会及び幹事会とする。

(総会)

第12条 総会は、第6条各号に掲げる役員をもって組織する。

2 総会は、次に掲げる事項を審議、決定する。

- (1) 役員を選任に関する事項
- (2) 事業計画及び事業報告に関する事項
- (3) 予算及び決算に関する事項
- (4) 会則の改廃に関する事項
- (5) その他会長が必要と認めた事項

3 総会は、毎年度1回、会長が招集し、その議長となる。

4 総会は、第1項に規定する役員の仕事の過半数の出席により成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(役員会)

第13条 役員会は、会長、副会長、代表幹事、幹事及び監事をもって組織する。

2 役員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

(幹事会)

第14条 幹事会は、会長、代表幹事及び幹事をもって組織する。

2 幹事会は、総会又は役員会において決定した業務の具体的執行計画等を審議する。

第5章 会計

(経費)

第15条 本会の経費は、学部別同窓会の分担金、寄附金等をもって充てる。

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

(監査)

第17条 会長は、会計年度ごとに決算書を作成し、監事の監査を受けなければならない。

第6章 事務局等

第18条 本会に、その事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局は、鹿児島大学総務部総務課内に置く。

(雑則)

第19条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この会則は、平成17年4月7日から施行する。

附 則

この会則は、平成19年4月6日から施行する。

附 則

この会則は、平成30年4月7日から施行する。

附 則

この会則は、平成31年4月6日から施行する。

第37号会報(令和6年1月発行)に寄せて

同窓会連合会 会長 富永 茂人



鹿児島大学9学部9研究科を卒業・修了された約12万人のOB、OGの皆様、「新型コロナウイルス感染症」の5類への移行（令和5年5月8日）から半年以上が経過しましたが、いかがお過ごしでしょうか？

鹿児島大学同窓会連合会も「新型コロナ禍」により3年間活動を制限されましたが、幹事会および役員会は連合会事務局を担っていただいている鹿児島大学総務部基金・渉外係のご努力によりメール会議等を活用して途切れることなく行われてきました。

対面での総会は令和4年度から開催できました。総会と併せて行ってきた懇親会（卒業生の集い）が令和5年4月に4年ぶりに開催できたことは前号（第36号、令和5年7月発行）に述べましたが、久しぶりの学部を越えた再会を喜び、お互いの絆を深める賑やかな会になりました。

同窓会連合会の令和5年度計画では、今年は幹事会、役員会などを「コロナ禍」以前と同様の開催方式に戻ることが決定されています。「新型コロナ禍」で強いられた活動制限の風潮は俄かには元に戻らないようですが、今後は同窓会連合会を構成する9学部同窓会がそれぞれ工夫して実施している新しい取組を参考に連合会活動の活性化に活かしていきたいものです。母校・鹿児島大学と私たち同窓会の発展のために卒業生、修了生の皆様のご協力と力強い後押しをお願い申し上げます。

さて、鹿児島大学同窓会連合会には「関東支部」および「福岡支部（福岡北辰斜めの会）」および「ブラジル支部」の3支部があります。

「福岡支部（福岡北辰斜めの会）」の総会は毎年2月第3土曜日に盛大に開催されており福岡県在住の鹿児島大学9学部の卒業生が多く集り、学部・学年を越えた縦横の連携を深める活動が盛大に行われています。次回は2024年2月17日（土）開催の予定です。「関東支部」は3年毎に総会を開催することになっていますが、平成29（2017）年9月24日を最後に2020および2023年は「新型コロナ禍」により中止されています。次回は2024年10～11月頃開催の方向で準備することが確認されたようです（2023年10月28日・関東支部幹事会）。なお、「関西支部」も2019年12月に「設立準備会」が開催され、支部設立の機運が大いに高まったようですが、その後「新型コロナ禍」で中断しています。今後の「関西支部」設立に向けた活動再開を期待したいものです。

最後に、皆様のますますのご健勝と発展をお祈りいたします。

目 次

第37号会報（令和6年1月発行）に寄せて	1
学長挨拶	2
鹿児島大学の近況	3
各学部同窓会活動報告	8
特別寄稿（歯学部、工学部）	18

学 長 挨拶

鹿児島大学長 佐野 輝



新年明けましておめでとうございます。鹿児島大学同窓会連合会会員の皆様方におかれましては、日頃より本学の教育・研究並びに大学運営等に関しまして、ご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。また、鹿大「進取の精神」支援基金につきましては、各同窓会会員の皆様方から多大なご支援を頂き、この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

昨今、大学に対してもいろいろな評価やランキングが国内外でなされるようになってまいりました。今回は、そのような中での本学の健闘ぶりをご紹介します。



日経HRと日経新聞社が2023年6月7日に公表した企業の人事担当者から見た大学イメージ調査「就職力ランキング」におきまして、鹿児島大学が九州・沖縄の総合ランキングで昨年の5位から2位（全国では15位）に浮上しました。同じ調査の「採用を増やしたい大学ランキング」でも、全国で2位と高い評価を受けています。本学卒業・修了生のイメージでは、主体性などを見る「行動力」と創造力などを見る「独創性」の得点が高く、企業の人事担当者から「人間力が高い印象を受けている」と高評価でした。また、この調査では、企業の人事担当者に対し、大学の取り組みに対する評価も尋ねており、本学は「大学の取り組みランキング」の総合ランキングでなんと全国1位を獲得しています。取り組み項目別でも、「授業改善に取り組む大学ランキング」4位、「すぐれた研究に取り組む大学ランキング」17位、「地域の活性化に貢献する大学ランキング」2位、「就職支援に熱心に取り組む大学ランキング」2位、さらに「学習環境が整っている大学ランキング」1位と、多くの項目で上位を占めました。



さらに、日経新聞社は全国765校の国公私立大学を対象に、大学が地域社会にどのような貢献をしているかを探る「大学の地域貢献度」調査を実施し、2023年11月発行の日経グローバル誌でその結果を公表しました。

鹿児島大学は、その中でも総合ランキングで全国5位（昨年7位）と輝かしい評価を受けました。中でも、【SDGs (Sustainable Development Goals = 国連が掲げる持続可能な開発目標) 対応・グローバル】の分野では全国1位、地域の住民との交流や協力について大学や学生がどのように関わっているかを、開かれた大学や社会人教育といった観点から評価した【学生・住民】の分野では全国2位と上位を占めました。

国際的な大学ランキングにはいくつかの種類のものがありますが、英国の教育系報道機関Times Higher Education (以下THE) による「THE世界大学ランキング」はもっともポピュラーなものの一つで、評価の基準としては「研究」に対する重みが強く置かれています。2023年9月27日に発表された「THE世界大学ランキング2024」では、前回の1501+位から今回は1201-1500位と躍進を遂げ、九州・沖縄地区の国立大学では、九州大、熊本大に次いで、九州工業大、長崎大とともに3位グループとなりました。THE世界大学ランキングは研究に大きい比重がかけられた大学ランキングとされていますが、本学も「研究大学」としての力を維持しているとの評価かと思っています。



同じくTHEの大学ランキングの中でも「THEインパクトランキング」は、SDGsの枠組みを通して、大学の「社会貢献力」を可視化しランキング付けするもので、大学の「社会貢献力」を測るランキングとして注目されています。2023年6月1日に発表された「THEインパクトランキング2023」では、鹿児島大学は、世界1591大学の中で総合ランキング301-400位（国内17位）にランクインしました。本学では、SDG別ランキングではSDG2、SDG3、SDG9、SDG14、SDG15、SDG17の6つの目標にエントリーし、SDG17〈パートナーシップで目標を達成しよう〉で世界85位（国内3位）という高い評価を得ました。

以上の結果をまとめてみますと、鹿児島大学は地方に存在する国立大学として、世界に伍する研究力を有し、社会貢献力に優れ、中でも地方創生や産官学連携などで成果を上げていると評価されており、また、卒業生が働く企業から見たイメージでは、「卒業生の人間力が高い」との印象で、大学の取り組み状況も秀逸であると考えられており、いささか面映いような高評価を頂いています。本学は今後も「南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点」を目指し、自主自律と進取の精神により地域社会や国際社会で活躍する人材の育成に力を入れて参る所存ですので、同窓会の皆様方には今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

鹿児島大学の近況

—進取の気風あふれる総合大学—

(2023年5月から2023年10月までのトピック)

○鹿児島大学OB・OGゴルフ大会実行委員会より寄附をいただきました（5月18日）

5月16日、鹿児島大学OB・OGゴルフ大会実行委員会の岩元善巳委員長、田代博文副委員長が本学を訪れ、第42回OB・OGゴルフ大会の参加費の一部を賛助金として贈呈いただきました。同大会は4月16日（日）に開催され、本学の卒業生をはじめ236人が参加しました。

賛助金を受け取った佐野学長は、「贈呈いただいた賛助金は、鹿大「進取の精神」支援基金に組み入れて、本学の教育・研究活動に幅広く活用させていただきます。」と謝辞を述べました。

○【課外】陸上競技部が学長へ全日本大学駅伝対校選手権大会出場を報告（6月16日）

6月9日、本学陸上競技部（顧問：塗木淳夫准教授）は、学長へ秩父宮賜杯第55回全日本大学駅伝対校選手権大会への出場決定を報告しました。これは、5月28日に福岡県で行われた九州地区選考会において本学が1位となり、39大会ぶり9回目の本大会出場を決めたことから行われたものです。

学生らは、賞状やトロフィーとともに優勝を報告し、選考会での勝因や日頃の練習状況、選手権に向けた意気込みなどを語り、動画による当日の様子も披露しました。佐野学長からは、「チームワークも素晴らしく、ぜひ本大会でも活躍してほしい」と、祝福と激励がありました。

学長への報告を終えた同部藤本悠太郎さん（医学部3年）は、「学長とお話しするのは初めてで緊張したが、色々声をかけていただき嬉しかった。全国でも頑張りたい」と話しました。

選手権は11月5日に熱田神宮西門前（愛知県）をスタートし、8区間106.8kmをたすきでつなぎます。陸上競技部への応援をよろしくお願いいたします。

○【附属図書館】中央図書館に「SDGsコーナー」を設置（7月12日）

附属図書館では、5月1日、中央図書館2階アメニティルームに「SDGsコーナー」を設置しました。

多くの方にSDGsについて学び、考え、行動できるきっかけにコーナーなればと、SDGsの入門をはじめ、17の目標毎に分かりやすく整理した書籍を揃えました。学外の方も閲覧可能ですので、是非お待ちしております。開館情報等は附属図書館HPをご確認ください。

本学では、教職員のみならず、学生および本学関係者が一丸となり、「オール鹿大」でSDGs達成の推進に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献することとしております。

○水産学部があいおいニッセイ同和損保と地方創生及び地域課題解決に向けた連携推進に関する協定を締結（8月10日）

水産学部は、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社と地方創生及び地域課題解決に向けた連携推進に関する協定を締結しました。

今後、「鹿児島を西の深海魚王国にする」を第一弾の取組みとして、水産部の活性化、地域活力の創造に寄与することを目的に、水産学部 大富潤教授が研究および活動を進める「うんまか深海魚（鹿児島で獲れる深海魚）」を県内外に広めていくことを共同で推進します。

深海魚は、出荷に至らず未利用状態となっており、深海魚を鹿児島の地魚としてブランド化させることで、食品ロスの削減だけでなく漁業就労人口減少の抑止、観光価値・経済効果の創出等、地方創生・SDGsに資する取組みとして期待が高まっています。

また、双方の強みを活かした各種分野での共同取組みの実現を目指し、地域社会の持続的な発展に貢献していきます。

○【獣医】南九州畜産獣医学拠点運営に関する協定を締結（8月18日） ※一部抜粋

8月17日、曾於市役所において「曾於市と国立大学法人鹿児島大学との南九州畜産獣医学拠点運営に関する協定書」の調印式を実施しました。

これまで曾於市と本学は、南九州畜産獣医学拠点（通称：SKLV（スクラブ））を、国際（欧米）水準の畜産獣医学の実践的学部教育と専門的学び直し教育の拠点とし、全国から教育研究課程の受講を希望する

獣医学部生を受け入れ、農畜産業を取り巻く大きな環境変化に対応できる能力を備えた獣医師を養成（育成）するとともに、当該施設の人材・施設等を活用し、地域の畜産関係者及び畜産農家に最新の家畜防疫技術等の学びの場を提供することにより、農畜産業の更なる振興、人材の育成・確保と新しい人の流れを生みだすことを目的として、本拠点の整備を進めてきました。

このたび、令和6年4月の南九州畜産獣医学拠点運営開始を前に、継続的な教育・研究の充実や人材育成、交流人口の創出のために、相互に連携しながら取り組むことについて両者が合意し、南九州畜産獣医学拠点運営に関する協定を締結する運びとなりました。（略）

曾於市と本学は、令和6年4月の南九州畜産獣医学拠点の開設に向けて、更なる連携の下、拠点整備を進めていくこととしています。

なお、本学では、南九州畜産獣医学拠点の開設に先立ち、令和5年9月1日に共同獣医学部附属南九州畜産獣医学教育研究センターを設置し、動物の福祉・健康の適正な維持管理、農場衛生・経営に関するコンサルテーション及び地域獣医療の高度化等により畜産獣医学の教育研究と地域の活性化に貢献するための取組を進めていきます。

○2023年度後期「公開授業」受講生向けガイダンスを実施しました（9月20日）

高等教育研究開発センター生涯学習部門では、9月5日、2023年度後期「公開授業」の受講生を対象としたガイダンスを郡元キャンパスにて開催しました。

公開授業は、本学の正規学生向けの講義を一般の方に開放するもので、今回は175名・241科目のお申し込みをいただきました。

この日は20代～80代までの受講生が約2時間、同部門教員による、受講上の諸注意・スケジュール・実際の対面授業や遠隔授業の受け方等の説明を受けました。

今年度より生涯学習部門長となった佐野雅昭教授は、「社会人の皆さんには、役立つかどうかに関わらず、純粋に学びを楽しんでいただきたいです。また、皆さんが真剣な様子で参加されることで、教員と学生の気が引き締まり、授業の緊張感が高まります。授業の時間を一緒に過ごすことで、公開受講生の皆さんからも学ばせていただいております、『大事なことは公開受講生と本学の学生及び教員との学びあい』であると感じています。」と挨拶しました。

ガイダンス参加者の約半数は、今回はじめて公開授業を受講する方であり、受講に向けての質問も積極的に行われました。ガイダンス後は大学内のキャンパスツアーも行い、授業開始に向けての準備を行いました。

今期は鹿児島県内各地のほか、東京や大阪など県外からも遠隔授業へのお申し込みをいただきました。参加者は10月から半年間、1科目につき約15回の講義を受講します。

部門スタッフ一同、皆さまの学びを全力でサポートしていきたいと思っております。

○【医歯研】関連病院等と「救急医療に関するモデル事業」連携協定を締結（10月2日）

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科は、9月6日に鹿児島大学病院、鹿児島市立病院、独立行政法人国立病院機構鹿児島医療センター、公益社団法人昭和会いまきいれ総合病院、公益財団法人慈愛会今村総合病院及び公益社団法人川内市医師会との7者で「薩摩川内地区における救急医療に関するモデル事業」に関する連携協定を鹿児島大学鶴陵会館において締結しました。

本協定は、「鹿児島大学・薩摩川内地区救急（QQ）ネットワーク：Kagoshima University - Satsumasendai QQ Network, KU-S QQ-Net」と銘打ったネットワークを中核としたモデル事業を通じて、薩摩川内地区における適切かつ質の高い救急医療の提供はもとより、救急医療における医療連携ツールの活用並びに開発、救急医療に係る人材育成、加えて医師の働き方改革の施行を見据えた救急医療人材の負担軽減など地域医療に貢献することを目的としております。

同地区における第二次・第三次救急の受入困難事例などの危機的状況における救急医療を担う医師の負担軽減に繋げるため、関連病院の強みを最大限に活用し、消防機関からの受入要請に対する窓口対応の一本化、情報共有システムを利用した各病院の受入状況の可視化などに取り組む予定です。

○内閣府「令和5年度地域中核大学イノベーション創出環境強化事業」に採択されました（10月6日）

鹿児島大学はこの度、内閣府「令和5年度地域中核大学イノベーション創出環境強化事業」に採択されました。

地域中核大学イノベーション創出環境強化事業は、大学へ社会実装を担う官庁や自治体の自主財源事業

からの資金獲得実績等に応じたインセンティブとなる資金を配分することで、大学の地域ニーズに即した社会貢献活動を推進するとともに、地域行政や産業界からの投資誘発により大学の財源多様化を進め、経営基盤の強化を促すものです。

鹿児島大学は、これまでに推進してきた地域連携の実績に加え、日本屈指の畜肉生産地帯という地域の特色を踏まえた研究・教育・産学官連携拠点「南九州畜産獣医学拠点」における獣医師の養成、畜産業の振興策及び九州内の製造業を中心とした産学官連携によるサーキュラーエコノミー実証研究拠点「Circular Park 九州」における循環型社会の構築等の構想が評価されました（令和5年度交付額1億円）。

鹿児島大学は、本事業によって「南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点」としての価値を高めるとともに、鹿児島県をはじめとする南九州域を中心になお一層、地域に貢献してまいります。

○鹿大、奄美群島拠点奄美分室を整備（10月10日）

鹿児島大学では、奄美群島における地域活性化の中核的拠点として教育、研究及び社会貢献活動を推進し、地域課題を解決することを目的として、平成27年4月に奄美大島（奄美市）に設置（平成31年4月に現在の奄美群島大島細会館6階に移転）した国際島嶼教育研究センター奄美分室を拡充し、奄美群島拠点の機能強化のためセミナールームと多目的ルームを本年7月に整備しました。また、本整備を機に新たに理事（企画・社会連携担当）を委員長、関係理事及び部局長等をメンバーとする奄美群島拠点運営委員会を設置、9月に第1回を開催し、奄美群島での各部局の活動状況や課題を共有するとともに、今後の奄美群島における展開について意見交換を行いました。

この拠点整備を記念するシンポジウムを12月16日（土）に奄美分室のセミナールームを会場に対面とWebのハイブリッドで開催する予定です。

教職員の受賞等

- ①鹿児島大学と東京海洋大学・北海道大学・長崎大学および九州大学応用力学研究所による海洋プラスチックごみの共同調査が、日本水産学会技術賞を受賞（4月17日）
- ②大学院医歯学総合研究科免疫学分野（原博満教授主宰）の笠松純講師が、LEGEND Research Grant Program 2022（後期）を受賞（5月23日）
- ③情報基盤統括センター升屋教授が、総務省九州総合通信局の「情報通信月間表彰」を受ける（6月6日）
- ④大学院医歯学総合研究科歯科麻酔全身管理学分野の比嘉憂理奈助教が、第27回久野寧記念賞を受賞（6月30日）
- ⑤西隆一郎水産学部長が、一般社団法人全国海岸協会の「海岸功労者表彰」を受ける（7月4日）

学生の表彰等

- ①大学院農林水産学研究科環境フィールド科学専攻修士課程2年の牧野虎太郎さんが、日本藻類学会第47回大会で学生発表賞を受賞（4月17日）
- ②大学院医歯学総合研究科統合分子生理学研究室（筆頭著者：医学部医学科5年の金子達朗さん）が、第100回日本生理学会記念大会において入澤記念優秀論文賞を受賞（6月30日）
- ③教育学部美術科4年の切田京美さんの作品が、第36回MBCサムホール美術展「そうしん優秀賞」を受賞、3年の梶実希さん（洋画）、4年の三角日南さん（日本画）が入選（7月13日）

海外の大学等からの表敬訪問（訪問日）

- ①ドイツ フェヒタ大学のベリーナ・ピーツナー学長（教授・化学教育）が、郡山千早国際交流担当副学長、有倉巳幸教育学部長を表敬訪問（4月10日）
- ②パラオ共和国のピーター・アデルバイ駐日パラオ共和国大使館特命全権大使、クリスチャン・エピソン・ニコレスク駐日パラオ共和国大使館次席・公使参事官、Mayce Ngirmeriil巡視船ケダム号船長らが、水産学部附属練習船かごしま丸を訪問（4月18日）
- ③Mayce Ngirmeriil巡視船ケダム号船長が、水産学部を訪問（6月9日）

<以上、鹿児島大学ホームページから転載>

鹿児島大学の年次決算について、従前から、大学ホームページ上や官報公告で財務諸表を公表しておりましたが、昨今、学生・保護者・卒業生・地域住民・産業界等の各ステークホルダーに対して、より積極的な情報開示を求められていることを踏まえ、令和元年度決算分より、年次決算の概要を情報開示しており、財務情報の詳細についてはホームページ (<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/zaimu.html>) をご確認ください。

【参考資料（ホームページ掲載）】

「財務諸表の概説」

令和4年度成果・実績等の非財務情報や他大学の比較等により本学の状況をわかりやすく表記しております。

「財務のミカタ」

国立大学法人会計基準の概要等を取りまとめています。



令和4年度決算について

国立大学法人鹿児島大学の令和4事業年度財務諸表が令和5年8月31日付けで文部科学大臣から承認を受けました。

国立大学法人は、国から負託された業務の実施に関して財務情報に基づく財政状態や運営状況に関する説明責任を果たすため、財務諸表を作成し公表することとされています。

財務諸表は、企業会計原則に基づきながら国立大学法人の主たる業務が教育研究であること、授業料等の学生納付金や附属病院収入等の業務特性があること等に配慮し固有の会計処理を定めた「国立大学法人会計基準」等に従い作成しております。国立大学法人会計基準の概要等については、別紙で「財務のミカタ」でわかりやすく取りまとめておりますので併せてご確認いただければと思います。

また「財務諸表の概説」では財務情報に加え、令和4年度成果・実績等の非財務情報についても記載し、本学の状況をより分かりやすく表記するものとなっております。

本学の令和4年度末における財政状態は、貸借対照表にありますように資産が1,474億円、負債が496億円、純資産が977億円となっております。また、本学の令和4年度における運営状況は、損益計算書にありますように経常収益が553億円、経常費用が522億円となり、令和4年度からの国立大学法人会計基準の改訂に伴い単年度における損益均衡が崩れたことによる臨時利益の大幅な増及び臨時損失を含めると149億円の当期総利益となります。（当期総利益は翌年度以降に多額の借入金に伴う病院経営等に使用いたします。）

本学を取り巻く財務状況は、法人化以降の運営費交付金の削減など大変厳しく、効果的かつ合理的な大学運営が強く求められております。

このような状況を踏まえ、本学は業務の効率化等による経費節減や自己収入等の増加を図るなど、より一層の財政基盤の強化を進めていくとともに、教育・研究・診療・社会貢献活動等の更なる充実・向上に努めて参ります。

今後とも皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

国立大学法人鹿児島大学
理事（財務・施設担当） 田頭 吉一

令和4年度 国立大学法人鹿児島大学 年次決算(概要)



貸借対照表 【期末時点の財政状態】		損益計算書 【一事業年度の運営状況】		決算報告書 【国の会計制度に準拠】	
資産	負債	経常費用	経常収益	収入	支出
147,418 (+2,381)	49,631 (▲11,723)	52,296 (+330)	55,352 (+2,016)	59,052	55,505
	純資産	臨時損失 290 (▲455)	臨時利益 12,107(+11,806)		収支差 3,548
	97,787 (+14,104)	当期総利益 14,920(+13,764)	繰越積立金取崩等 47(▲182)	(内訳)	
	(内数)	利益の処分に 【未処理利益の処分内容】		外部資金収支差 280	
	当期末処分利益 14,920	利益処分類	14,920	翌年度繰越等 181	
		(内訳)	目的積立金 3,086	目的積立金申請 3,086	
			積立金 11,834		

※ 単位は百万円です(カッコ内は前年度増減)。
 ※ 単位未満の端数処理の関係上、合計額等が合わない場合があります。

■主な変動の要因

令和4年度は、多様なステークホルダーへの説明責任の改善を図り、国立大学法人自らの判断で戦略的に積立てができる内部留保の仕組みを作ることを目的として、国立大学法人会計基準等の改訂が行われました。そのため、単年度で損益を均衡させてきた資産見返負債の処理を廃止し、令和3年度以前の資産見返負債の残高を臨時利益として全額収益化したことが当期総利益へ大きな影響を与えております。

【資産】

- ・令和3年度に固定資産を大幅に整備したことに伴い取得価格よりも減価償却費の増加(▲795百万円)
- ・附属病院収入の増加や経費節減等による現金及び預金の増加(+3,844百万円)

【負債】

- ・会計基準改訂に伴う資産見返負債の廃止(▲13,622百万円)
- ・病院再開発に伴う借入金の増加(+1,103百万円)

【費用及び収益】

- ・診療報酬稼働額増加に伴う医薬品費等の増加及び光熱水費の高騰による診療経費増加(+519百万円)
- ・附属病院収益及び新型コロナウイルス感染症に関する補助金等の増加(+1,627百万円)

【臨時損失】

- ・附属病院における訴訟の損害賠償等による臨時損失

【臨時利益】

- ・資産見返負債の廃止に伴う収益化等

【損益等】

- ・当期総利益 14,920百万円(+13,764百万円)
- ・目的積立金 3,086百万円(翌年度以降、教育、研究、診療の質の向上等に充てる予定)

担当：鹿児島大学財務部財務課決算係 電話番号：099-285-7135 mail：kessan@kuas.kagoshima-u.ac.jp

各学部同窓会活動報告

法文学部同窓会

1. 令和5年度（第71回）法文学部同窓会定期総会の開催について

令和5年11月11日（土）午後3時から法文学部101号教室にて松田忠大法文学部長をお招きして令和5年度（第71回）法文学部同窓会定期総会を開催しました。

総会は今村敏治会長の挨拶のあと令和元年度、令和2年度、令和3年度、令和4年度決算、令和5年度予算案に付いて諮られ全て承認されました。

その後、松田学部長の挨拶、郷原関東地区支部会長と田原宮崎県支部会長からの支部報告があり総会は終了しました。

懇親会は場所を稲盛記念館ヴェジマルシェに移し、今村会長の挨拶、松田学部長の乾杯でスタートし恒例の同窓生全員による近況報告があり、4年ぶりのため、昔話に花が咲き大いに盛り上がりました。

宴もたけなわの頃、川井田健一氏の巻頭言で「北辰斜めに」を全員で肩を組みながら斉唱し、最後に灰床義博副会長の「万歳三唱」でお開きとなりました。



2. 第21回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペ開催

令和5年10月21日（土）第21回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペが南国カンツリークラブで開催されました。当日は雲ひとつない快晴で白熱したプレーが展開されました。38名の参加で、4年ぶりに表彰式も実施しました。

優勝は昭和63年法文学部法学科卒の村山幸司さんでした。成績は以下のとおりですが、上位3名が同一ネットの接戦となり、アウトがちで順位が確定しました。

優勝	村山 幸司	（S63年、法文学部法学科卒）	ネット	73.4
2位	堀之内 勇	（H2年、法文学部法学科卒）	ネット	73.4
3位	後野 茂	（S53年、法文学部法学科卒）	ネット	73.4
4位	堀ノ内達也	（H10年、法文学部経済学科卒）	ネット	73.8
5位	中野 寿康	（S56年、理学部卒）	ネット	74
ベストグロス	堀之内 勇	（H2年、法文学部法学科卒）	グロス	77

四年振りの総会・懇親会同時開催

台風6号に悩まされて、会長はじめ役員一同心配の中での開催であった。のろのろ台風の上その進路が定まらず、直前になって臨時の役員会を持つなど疑心暗鬼の中の見切り発車であった。幸いにも当日は、何とか天気に恵まれて、キャンセル者も多い中87名の出席者を得て去る8月6日（日）にサンロイヤルホテルに於いて盛会裏に開催出来た。

1. 第26回同窓会総会について

県教育委員会の黒木誠教育次長様・有倉巳幸教育学部長様のご臨席のもと、始めに亡師・亡友の御霊に黙祷をした後、これまでご尽力頂いた名誉会長の石神正明様・松永郁男様に感謝状を贈呈した。

その後、東会長から開催出来なかった3年間のことや今回の同窓会にこぎつけた経緯などを添えて、開会の喜びと意義などが語られた。

会は恒例のように事業報告や決算案・予算案について無事審議を終えた。

その後で東会長から同窓会の愛称について、その意義や検討の経緯が述べられ、教育学部の同窓会の愛称を「教教会」とすることが満場一致で承認されたことは、我が同窓会の歴史に残ることと思う。

更に、今年は本同窓会設立25周年を記念し、10月28日（日）に開催予定のゴルフ大会について、既に十分な参加者がある旨の報告が末弘実行委員長からなされ、会場も沸いた次第である。

かくして極めて有意義な総会となった。



2. 講演について

総会を機に、有倉巳幸教育学部長様から「鹿児島大学教育学部の現状と今後の教員養成に向けて」という演題で貴重な講演をして頂いた。就中最近の報道や社会の風潮などから教職を受験しない学生がとて多くなって困っていること・教育実習校の先生の授業の質の高さに尻込みしている傾向があること等がパワーポイントを用いて丁寧説明された。

同窓会としても、出来る限り援助したいと思うことであった。

3. 懇親会について

昭和55年卒業のみなさんの熱意と尽力により、実に周到な計画と準備がなされ4年振りの楽しい有意義な懇親会になった。

担当学年の福留代表者様からこれまでの経緯と熱意溢れる開会のあいさつの後、同窓会の歌「わが友よ」を声高らかに斉唱して乾杯し、楽しい歓談となった。

最後は万歳三唱のあと次回担当学年の黒松代表者様から力強い案内と参集の呼びかけがなされた。

かくして極めて有意義な総会・懇親会が終了した。



理学部同窓会南明会

同窓会開催のご報告

理学部同窓会南明会

荒瀬 伸一（昭48・化学）

令和5年11月9日（木）昼12時から、稲盛記念館2階 ヴェジマルシェ'19にて理学部化学科昭和48年3月卒業の同窓会を行いました。存命30名中の17名参加の盛会となりました。鹿児島在住の恩師2名（中谷先生、坂元先生）にも参加頂きました。

同窓会が終わってから、理学部同窓会南明会の関東支部で活動している伊藤真実君（同級生）の紹介で、代表幹事の有馬一成先生と教員の神長暁子先生のご案内で理学部の散策をするという機会を得ました。半世紀前の記憶を辿りながら、楽しいひと時を過ごしました。

写真は、同窓会後の理学部散策に参加した、50年前の昭和48年3月に卒業した面々です。



追記

本同窓会には、関西支部会長の若松操様（前列左から2人目）と関東支部幹事長の伊藤真実様（前列左から3人目）も参加していらっしゃって、2024年2月に行われる関西支部設立総会について話し合いました。関東支部、関西支部が協力して理学部同窓会を盛り上げていくことを確認しました。

（南明会代表幹事 有馬 一成）

医学部同窓会

医学科同窓会鶴陵会

大学の新生への入学案内方法の変更に伴う同窓会運営への影響-鶴陵会-

従来、鹿児島大学に入学が決まった学生に対しては、入学時に提出すべき書類などを大学が郵送し、それに同窓会の案内と入会金納付願い、入会金の振込用紙を同封してもらっていた。新学期のオリエンテーションでは会長が新生に鶴陵会の紹介と入会金の納付を改めてお願いしていた。令和5年入学生からはこのような書類送付の方法が変更され、入学生は大学のホームページから必要書類をダウンロードし入学時に提出する方法が変わった。同窓会連合会が中心になってこの変更への対応を大学と交渉し、同窓会からの案内は入学する学部の書類の頁に同窓会のボタンを作ってもらい、これをクリックすると同窓会についての資料が出るようになった。ただし、振込用紙をダウンロードすることはできなかった。以前から、鶴陵会ではカード決済の制度を取り入れていたので、これも利用できる旨、同窓会案内に加えた。さらに、入学資料のダウンロードと同時に、カード決済に自動的に進めるよう、案内に鶴陵会カード決済ページのURLを貼り付けてもらう事で利便性を図った。

令和5年度は先に述べたように新生のオリエンテーションで鶴陵会の紹介、入会金納入のお願いをして、配付資料に振込用紙を加えた。令和5年5月までの入会金未納者には、6月の他の文書発送の時に入会金納入のお願いとコンビニ・郵便振込共通の用紙を同封した。

令和4年度（令和5年3月まで）と令和5年度（令和5年10月31日まで）の状況を比較してみた。令和4年入学生は110名中 98名（89.1%）から入金があり、郵便振込 81名（82.7%） クレジット17名（17.3%）であった。令和5年入学生は110名中 95名（86.3%）から入金があり、郵便振込 55名（57.9%） クレジット37名（38.9%） コンビニ振込3名（3.2%）であった。

なんとか令和4年と同じくらいの納入率が確保できたが、今後とも、入学時のオリエンテーションで同窓会の案内、入会金の納入を対面で説明し、同窓会への理解を深めることと、未納者には機会があるごとに入会金納入のお願いを続けていくことでしばらく様子を見たい。

話は変わるが、新型コロナウイルスが2023年5月に感染法上の2類相当から5類に移行した。患者数も減少が続いており、鶴陵会本部の会合も支部の会合も対面で行われるようになってきた。4年ぶりの再会を喜ぶ声が上がっているが、この状態が今後も維持されることを祈りたい。

（文責：医学科同窓会鶴陵会会長 高松 英夫）

保健学科同窓会

3年続いたコロナ禍は世界中で収束しており、現在では「新しい生活」と言われながらも以前のような生活を取り戻しつつあります。私が住む霧島市でも、お祭りや地域のイベント、運動会や部活動の大会などが開催され、昔のような活気が戻り元気がでる令和5年度です。

私の職場は整形外科単科の病院ですが、元気になった皆さんの影響か、春先より以前よりご高齢の方の転倒による骨折や若い女性のアキレス腱断裂、中学生の捻挫や骨折などの患者様が増えました。今までの自粛生活から解放され、一気に動き出した弊害でしょうか？動かれる前には、是非とも準備体操をお勧めいたします。

きっとこの3年、直接多くの方と対面しお話することが少なく、そのような機会を得ていつも以上の力が出た結果かと思います。人と出会い、交流することは何よりも頭も体も活性化させます。沈んだ気持ちや、何となく感じていた将来への閉塞感など気分が面白くない生活を払しょくするためにも今年度こそは対面での同窓会を開催しようと意気込む今日この頃です。患者さんを元気にする前に自分たちが元気にならないと！

来年度がもっと良い年になるように、残りの令和5年度をもっと盛り上げていきます。

（文責：保健学科同窓会理学療法学専攻部会 会長 宮崎 雅司）

歯学部同窓会

-Fun for all-

歯学部同窓会は、令和5年4月1日より第6代谷口浩太郎会長を元に新執行部が発足いたしました。これまで6期12年にわたり活動されてきた第5代村上慎一郎会長と執行部に対し深く感謝いたします。

今後は前執行部による事業を継承しつつ、更なる発展を目指すためキャッチフレーズとして<Fun for all>をかかげ、同窓会に関係する全ての方々が楽しみを共有できるように活動してまいります。

活動紹介

〈令和4年〉

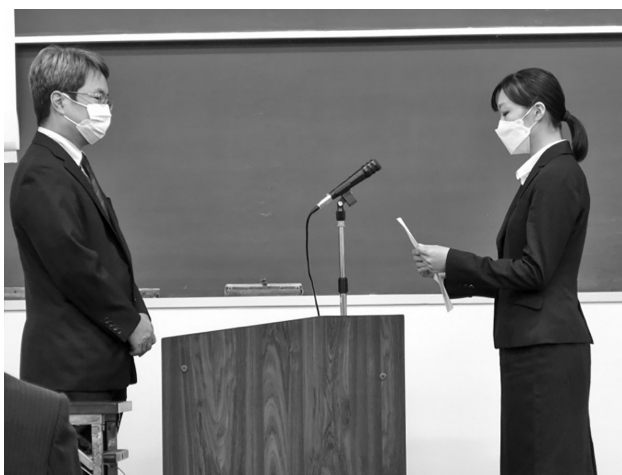
- 7月 評議委員会
- 9月 歯学部学生白衣授与
- 10月 第31号会報誌発刊
- 11月 歯学部学生進路相談会、
総会学術講演会



令和5年新執行部

〈令和5年〉

- 1月 DeeR WOMAN開催
- 4月 評議委員会、新入生ガイダンス、新入生保護者説明会、
鹿児島大学O.B.& O.G.ゴルフ大会優勝
- 6月 九州デンタルショーブース参加



歯学部学生白衣授与式



鹿児島大学O.B.& O.G.ゴルフ大会優勝

工学部同窓会

令和5年度の工学部同窓会の主な活動内容について、以下にご報告いたします。

1. 第40回鹿児島大学工学部同窓会大分県支部総会

令和5年6月10日、大分センチュリーホテル（大分市）で開催されました。本会は工学部のほか、法文学部、理学部、農学部卒業生も参加されています。本年は4年ぶりの開催にも関わらず、18人の参加がありました。総会では大石喬支部長（応化S37卒）の挨拶の後、大学から出席した宮城泰児会長、福原稔機友会庶務幹事から、同窓会と大学の近況報告がありました。懇親会では参加者からの近況報告などもあり、久しぶりの再会を喜び、楽しく歓談しました。そして、矢方尚寛氏（化工S60卒）の万歳三唱の挨拶により盛会の中、閉会しました。



第40回鹿児島大学工学部同窓会大分県支部総会

2. 令和5年度鹿児島大学工学部同窓会拡大幹事会・岸園賞選考会・司会

令和5年8月18日、学習交流プラザの学習交流ホールおよび鹿児島大学稲盛記念館のヴェジマルシェ'19で開催されました。

○拡大幹事会

昨年度の運営報告と今年度の運営計画について審議し、満場一致で了承されました。

○岸園賞選考会

「岸園賞」は、寄付者の岸園司氏のご遺志である「鹿大発展を、工学部同窓会の発展を」という理念の下、鹿児島大学工学部の名を高めた方、あるいは工学部同窓会活動に尽力した方を表彰するものです。今年度、推薦がなかったため、受賞の該当者はいませんでした。

○第9回司会

本年は4年ぶりの36名の開催となりました。宮城泰児同窓会会長の挨拶後、令和2年度「岸園賞」受賞者の鹿大北辰会の代表太田芳明氏のご講話を予定していましたが、ご欠席のため、事前に送られた資料を基にご功績が紹介されました。「司会」は、同窓生の交流を深め、教員同士のコミュニケーションを図り、南九州を中心にした産学官の連携を推進するという主旨の下、開催されています。同窓会顧問の木方十根工学部長などのご挨拶もあり、参加者は親睦を深める良い機会となりました。



鹿児島大学工学部同窓会第9回司会

（文責：工学部同窓会編集幹事 福原 稔）

農学部あらた同窓会

1. 令和5年度（会計年度令和5年10月1日～令和6年9月30日）評議員会を開催しました。

「令和5年度評議員会」を令和5年10月26日「あらた記念会館」において25名の評議員が出席して開催しました。協議事項は令和4年度の「事業報告（案）」、「一般会計収支決算（案）」、「名簿特別会計収支決算（案）」および功労者表彰特別会計収支決算（案）」、「令和4年度会計監査報告」ならびに令和5年度の「事業計画（案）」、「一般会計収支予算（案）」、「名簿特別会計収支予算（案）」および功労者表彰特別会計収支予算（案）」、「会則改正」および「役員交代・改選（案）」についてでした。協議事項は11月23日開催の「あらた同窓会令和5年度総会」に付議しました。

2. 令和5年度総会・懇親会を開催しました。

「鹿児島大学農学部あらた同窓会」総会は例年11月23日（勤労感謝の日・旧新嘗祭日）に開催しています。これまで、「新型コロナウイルス感染症パンデミック」により、令和2年度の総会は中止、令和3年および令和4年度度総会は定員300名の農・獣医共通棟101号教室を借用して「対面による総会」を「評議員会および総会」として開催しました。

今年（令和5年）度総会・懇親会については、「新型コロナウイルス感染症」の感染症法上第5類移行に伴い、総会は昨年度同様に定員300名の農・獣医共通棟101号教室を借用して54名の出席で開催しました。総会では令和5年度評議員会から付議された事項について協議しました。総会後の懇親会は4年ぶりに鹿児島大学郡元キャンパス内の「ヴェジナルシェ'19（稲盛記念館2階）」で50名の出席により開催し、出席者は久しぶりの顔合わせでの親交を深めました。



令和5年度「あらた同窓会総会・懇親会」（写真上：総会、下：懇親会）

3. 「あらた同窓会報令和5年秋季号（学生向け会報）」を発行しました。

令和5年11月23日には「あらた同窓会報令和5年秋季号」を発行しました。秋季号は学生会員向け会報であり、執筆者のほとんどが在学生です。「あらた同窓会長・巻頭言」、「農学部長・挨拶」、「令和6年度農学部改組紹介」に続いて「ピバ・キャンパスライフ」が9編、「教育実習奮闘記」が3編、「インターシップ体験記」が3編、「介護体験記」が2編、「留学体験記」が2編で、全文で表紙込みの20ページです。具体的な内容については、あらた同窓会HP (<https://aratadousokai.org/>) でお読みいただけます。

4. 令和6年度から農学部教育体制が変わります（農学部改組）。

上記の「あらた同窓会報令和5年秋季号（学生向け会報）」においても、学部改組ワーキンググループ担当の濱中先生に「令和6年度から農学部の新たな教育体制がスタートします」というご寄稿をいただきました。その記事については「あらた同窓会報令和5年秋季号（学生向け会報）」の4ページで詳細を読むことができます。ご寄稿の全文はあらた同窓会HP (<https://aratadousokai.org/>) から、詳細については農学部HP (<https://www.agri.kagoshima.ac.jp/kaiso/kaiso04/>) または右上QRコードからご覧いただけます（上記図はトップ画面）。

令和6年度入学 受験生の方へ

農学部は、これまでの3学科を統合し

農学科1学科体制にリニューアル!

これまで 3学科 + 1コース
農業生産科学科、食料生命科学科、農林環境科学科

令和6年度 1学科 (4つの専門プログラム) + 1コース
農学科
2. 新設する4つの専門プログラムから選抜
植物資源科学プログラム、環境共生科学プログラム、食品生命科学プログラム、農食資源・地域で学ぶプログラム

4. 国際食料資源学 特別コース (協賛プログラムあり)

https://www.agri.kagoshima.ac.jp/kaiso/kaiso04/

水産学部同窓会魚水会

魚水会・全国総会2023福岡開催

新型コロナウイルスの為に延期、延期になっていた魚水会・全国総会2023福岡大会が全国からたくさんの参加者を得て、令和5年（2023）6月3日（土）福岡天神・西日本新聞会館にて開催できました。

まず、鬼丸久徳専務理事の開催宣言に続き、岩元善巳会長の挨拶の後、石川正文福岡支部長が議長となり、議案を審議して決算・予算などが承認されました。休憩を挟んで、国会における気候変動などの質問で注目されている4年生の中村涼夏さんによる「国際市民から見る社会変化と気候変動～水産業の今後を考える～」の演題で講演があり、質疑応答などを交えた熱心な講演会となりました。

その後、懇親会に移り、西隆一郎水産学部長に来賓挨拶と乾杯の音頭を取っていただき、全国から持ち寄った特産品などの抽選会もあり大変盛り上がりました。最後は次期開催地の吉原芳文鹿児島県支部長の挨拶、参加者全員で校歌斉唱、関門支部の熊山忠和氏の元気な「笑い三唱」で締めくくりました。



福岡総会会場風景



乾杯

かごしま丸5年振りのパラオへの遠洋航海

新型コロナウイルスが5類に移行され、5年振りに水産学部附属練習船かごしま丸によるパラオへの遠洋航海が実現出来ました。

令和5年（2023）8月18日に鹿児島大学佐野輝学長、西隆一郎水産学部長より激励のお言葉をいただき、学生代表として水産学部2年生の富永悠月さんが「約40日間の航海を全員元気で帰ってこれるように頑張ります」と挨拶し、水産学部教職員、学生その他大勢の方々の見送りを受けて出港しました。学生14名、乗組員幅野船長以下23名の総勢37名の航海となりました。途中、マグロ延縄操業や海洋観測実習、パラオ共和国や沖縄那覇港において寄港地活動などを経験しました。9月5日には幅野船長と古澤機関長がパラオ日本大使館を表敬訪問し大使と懇談しました。無事、9月19日（火）谷山港に帰港しました。学生達にとっても今後の人生に大きな経験になったと思います。



共同獣医学部紫友同窓会

令和5年10月までの紫友同窓会の活動等についてご報告します。

1. 令和5年度 紫友同窓会評議員会

7月8日（土）に「HINATA」（東千石町）にて令和5年度紫友同窓会評議員会が開催されました。この評議会にて、これまで同窓会会長を務められた新納時英氏（昭和44年卒）が顧問となられ、新たに鶴田勉氏（昭和49年卒）が同窓会会長に選任されました。その他、副会長に伊地知氏および宮本氏、監事に川原氏の就任が承認されました。



（鶴田勉・新同窓会会長）



2. 紫友同窓会のホームページ（HP）が共同獣医学部のHP内に新設

同窓会のHPが8月1日に開設されました。アドレスは下記です。

<https://www.vet.kagoshima-u.ac.jp/graduate/class/>

3. 令和5年度 鹿児島大学同窓会連合会 第1回役員会開催

8月30日（水）に同窓会連合会役員会が鹿児島大学稲盛記念館3階会議室で開催され、鶴田勉・紫友同窓会会長が連合会副会長に、また松元光春・紫友同窓会副会長が連合会代表幹事に選任されました。

4. その他

名誉教授 濱名克巳先生が令和5年3月6日（月）にご逝去されました。謹んで、ご冥福をお祈り致します。

共同獣医学部の主な動向（令和5年）

8月：曾於市と鹿児島大学で南九州畜産獣医学拠点（施設）運営に関する協定書を締結

9月：共同獣医学部附属南九州畜産獣医学教育研究センター（教員組織）設置、全国獣医系大学関係者へ南九州畜産獣医学拠点（施設）のお披露目会開催

令和6年4月より共同獣医学部は共同獣医学科（定員30名）と畜産学科（定員30名）の2学科体制となります。今後とも皆様のご支援、どうぞよろしくお願い致します。

各支部の活動報告

関東支部

- 2023年度第1回幹事会 令和5年10月28日（土）
- 2023年度第2回幹事会 令和5年12月2日（土）
- 2024年度総会 令和6年10月19日（土）
TKPガーデンシティPREMIUM秋葉原

福岡支部（福岡「北辰斜の会」）

- 福岡「北辰斜の会」2024 令和6年2月17日（土）
アークホテルロイヤル福岡天神

鹿児島大学リサイクル募金へのご寄附のお願い

鹿児島大学リサイクル募金は、皆様から読み終えた本やDVD、切手・ハガキなどをご提供いただき、その査定金額が鹿児島大学に寄付される取り組みです。

皆様からのご寄附は、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けた整備・充実に役立てられます。

2018年10月から2023年11月まで、延べ607名の方々から1,237,408円のご寄附をいただいております。ご協力ありがとうございます。引き続きよろしくお願ひいたします。

〈取扱品目のご紹介〉

- 本（原則 ISBNコードがあり、出版から10年位までのもの）
- 切手・ハガキ ○貴金属・ジュエリー ○ブランド品・時計
- カメラ・レンズ ○蒸留酒 ○DVD・CD・ゲーム ○骨董・絵画・掛け軸
- 万年筆 ○バイオリン・ギター ○トレカ・フィギュア・模型 ○ゴルフ など

詳しくは、

鹿児島大学リサイクル募金Webサイト

➡ <https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/cat1355/furuhon.html>

お問い合わせ先

鹿児島大学総務部総務課 広報・渉外室 基金・渉外係
TEL：099-285-3101
E-mail：s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp



▶特別寄稿◀

「ゴジラ X SDGs」

歯学部・教授
松口 徹也

最近多く見かけるようになった「SDGs」という言葉は、人類が今後長く地球で暮らしていくために必要な「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」のことであり、2015年の国連サミットで採択されたことは多くの方がご存じのことと思います。貧困、戦争、核の恐怖、環境汚染、感染症など、現在の人類が直面している課題は多岐に渡ります。鹿児島大学ではホームページのトップに「鹿児島大学 X SDGs」のセクションを設け、佐野学長を中心に、SDGsの普及に熱心に取り組んでいます。歯学部でも常に、SDGsとの関連を念頭に置いた学生教育や研究を心がけています。学部学生や大学院生など若い世代への意識の浸透は特に重要です。同窓生の皆様にも、ご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

さて、SDGsという言葉も無かった数十年前に、人類自らの手で地球滅亡の危機を作り出してしまったことがありました。太平洋戦争終戦の年に広島、長崎に落とされた2つの原爆、戦後に世界中で繰り返された核実験、そして一触即発の事態まで進んだ東西対立です。太平洋中西部に浮かぶマーシャル諸島では、1946年から58年の間に米国によって67回もの核実験が行われ、その中心となったビキニ環礁では、美しかった珊瑚礁が破壊され、無人島に強制移住させられた住民は未だ故郷の島に帰ることはできません。特に1954年3月に使われた水爆「ブラボー」は広島原爆の1000倍ほどの破壊力で、その実際の威力は事前の想定を遙かに超えるものでした。当時、安全とされた付近の海域で操業中だった日本の遠洋マグロ漁船「第五福竜丸」は、水爆の死の灰による被害を受け、乗組員23名は全員被曝し、無線長だった久保山愛吉さんが死亡する悲劇を生みました。後の調査で、この時の死の灰は、東はアメリカ本土、西は日本に及ぶ世界規模で拡散していたことが明らかとなっています。

今や世界中の誰もが知っているゴジラ映画シリーズの第一作「ゴジラ」は、この核実験をきっかけとして1954年に制作されたことをご存じでしょうか。核実験によって太古の眠りを妨げられ、安住の地を失った恐竜が、放射能によって不死身の怪物「ゴジラ」となって東京を襲います。対抗する術がなく絶望と恐怖に陥った人類を救ったのは、天才科学者芹沢博士が発明した新兵器「オキシジェンデストロイヤー」でした。ゴジラを屠ったのを確認した芹沢博士は、新たな兵器が核兵器のように大量殺戮兵器として悪用されるのを防ぐために、全ての研究記録を焼却したうえで、自らの命を絶ちます。「ゴジラ」は、画期的なストーリーと当時としては驚異的な特撮技術で世界的人気を集め、その後シリーズ化されることになります。

シリーズ作を重ねていくうちに次第にオリジナルの精神は薄れ、いつのまにかゴジラは、地球侵略を狙う宇宙人などから人類を守るヒーローとなっていきます。映画の内容も子供向けになっていったため、その頃のゴジラ映画をご存じの方にはあまりピンとこない話かもしれません。しかし、第一作の「ゴジラ」は、真剣な反核・反戦のメッセージを持った大人向けの映画です。ロシアのウクライナ侵攻、イスラエル・ハマス紛争などの戦火が絶えず、第三次世界大戦の可能性すら指摘されている現在、いまだ鑑賞したことのない方や、子供の頃に観ただけという方は、日本が世界に誇るこの歴史的名作をご覧になってみる良い機会だと思います。

もう一つ忘れてならないのは、核実験によって住み処を失い地上へ姿を現すことになったゴジラ自身も被爆者であり、核による環境破壊の被害者だということです。近年、人間の居住地域に頻回にクマやサルが出現することが話題になっていますが、そもそもの主因は、人間の自然破壊による動物の生育環境の変化です。何かゴジラの話と相通じるものがあるように思います。「SDGs」は人類のためだけにある言葉ではありません。地球上の全ての生物種が調和して存続できる地球環境を取り戻し、守っていくことが、真の「SDGs」であることは、肝に銘じておかなければなりません。

映画「ゴジラ」は、「あのゴジラが最後の一匹とは思えない。もし、水爆実験が続けて行われるとしたら、あのゴジラと同類が、また世界の何処かに現れてくるかもしれない。」という、古生物学者山根博士の有名な言葉とともに終わります。この言葉は、東京日比谷のゴジラ像の台座に刻まれています。



東京日比谷のゴジラ像。
現在は近くの映画館のロビーに移され、屋外には別デザインのゴジラ像が設置されている。

▶特別寄稿◀

ありがとうの人生

太田 芳明

(工学部機械工学科 昭和43年卒業)

現在ある言葉の中で、最高の影響力を持った言葉は「ありがとう」の5文字だと言うことです。苦しい時、悲しい時、嬉しい時、楽しい時、どんな時でも「ありがとう、ありがとう、ありがとう」と繰り返し繰り返し言っているとその人には言葉の波動を受けて体内の水や血液が再生し健康体になり又精神も豊かになり、人間関係も円滑になってくると言われています。最近の言葉で言うとまさしくWell-beingです。心も、体も、社会的つながりも良い状態です。良く在る、良く居る、心身とも満たされた状態、健康的な幸せです。昨年喜寿を迎えこんなことを感じる年になりました。鹿児島大学時代にこれの基礎を学んだと思っています。

昭和39年60年前の初春希望の1期校大学の受験に失敗し初めて鹿児島を訪れました。何とか鹿児島大学の試験を完了し、その日のうちに紺碧の錦江湾を渡り桜島の溶岩の上に立ちました。まさに武者ぶるいですよ。よしこの地で勉学も頑張るが、人生の一番大事な輝く時を過ごそうと心に誓ったことを昨日の様に記憶しています。鹿児島大学の門をくぐって本当に良かったと思ったのは素晴らしい環境、素晴らしい仲間、素晴らしい恩師、周りの素晴らしい方々との多くの出会いです。人生すなわち「邂逅」このめぐり逢いが無ければ一生のときめき、優しさを知ることが出来なかったと思っています。

以来今日まで同期諸兄は無くてはならない存在でいつまでも楽しい素晴らしい仲間です。農学部近くの上荒田のアパートに一畳1,000円の下宿費で三畳の部屋です。下宿内は工学部の友人が数多く居ました。良く語り、良く飲み、騒ぎ、将来設計、政治経済、彼女、の事など良く語り明かしました。飽きない貴重な時間です。その時の楽しみが深夜にチリン、チリンと音色を奏でて来る夜泣きうどん屋さんのうどんでした。当時の金額で一杯30円だったと記憶しています。南国鹿児島も冬深夜は冷えます。サービスしてくれた天かすもおいしく深夜の温まる夜食でした。どこからともなくフロイデコールの友人の古き友の歌声が聞こえます！

大学在学中忘れられない大恩師が末永勝郎先生です。先生の講義は英語の教科書で私はさっぱり理解できず立ち往生したことがしばしばです。弁慶だったら芝居にもなりますが私はみんなの笑いものしかかなり得なかったようです。材料力学などの学問はもちろんの事先生からのご指導は人間としての基本技能をみっちりご教授頂きました。それは親よりも親身になって頂きありがたく、ありがたく心に沁みわたっています。この時の私が好んだことわざが「茄子の花と末永勝郎先生の意見は千に一つの無駄は無い」でした。なにより臉に焼き付いたことは末永先生の晩年鹿児島、あるいは奈良の地に数度となく訪問し懇談会食をしました。いつも矍鑠とされ私たちの事をいつまでも記憶されておられたことです。忘れられない恩師です。

かくして素晴らしく、楽しかった鹿児島大学を43年卒業し神奈川県茅ヶ崎市にある現TOTO株式会社東陶機器(株)に入社しました。当時未だ時代の波に乗ってなかったユニットバスの設計に従事しました。建築関係が中心に設計します。本当に困りました。何が何だかわかりません。建築学科を出た友人にはかなりの差を付けられます。最初の給与で当時オーム社の建築大辞典を購入し勉強しましたよ。負けてたまるかの気概と負けん気をもって。何とか理解できるようになり少しずつ会社の中でも存在価値が出てきたのかなと自覚できるようになってきました。その時のモットーが「仕事は厳しく」「人に優しく」「情けに厚く」です。思い立ったらすぐに実行する、行動する、知恵を働かせ出来ることをやる「思いある勇氣」と又緊急事態には、理非を考えず突進する向こう見ずの勇氣「蛮勇」が重要であると自分に言い聞かせ仕事をこなしてきました。何とか鹿児島大学の末永先生初め各先生、同僚、先輩に恵まれ大学で培った基本技能を武器につつがなく退職することが出来たのはありがとう、ありがとう、ありがとうの言葉が息づいています。

さーて会社退職後の気ままな生活です。いつまでも元気に生活できることを念願に、色々なものに興味を持ち好きな物にはお金を惜しまず、いつも笑い、色気を忘れず、好きなものを食べ、身体を動かし、おしゃれを気にし何事にも勤勉・誠実に、趣味のゴルフ、カルチャーライフを共有する会「鹿大 北辰会」を結成し母校の為機械科後輩のために秋の機械科セミナー、春の交流会と都合4年間7回ほど講演、討論会を実施しました。この事が大学の同窓会のためになった、功績をあげたと言うことで、令和2年8月工学部同窓会より岸園賞を北辰会に授与されました。コロナの関係で令和5年8月に表彰状を頂戴しました。ありがたいことです。この様にたくさんのありがとうを言い、又ありがとうを貰った人生です。最後に残りの人生もありがとう！

卒業生によるキャリア支援セミナー「きばいやんせ、鹿大生2023！」

◎日時 2023年12月2日（土） 14：00～16：30

◎場所 【第1・3部】 学習交流プラザ2F 学習交流ホール

【第2部】 学習交流プラザ2F 学習ラウンジ3・4

【ゲストスピーカーの皆さん】

木村 健介 氏 2009年 法文学部卒業／三井物産(株) ブランド&リテール事業部

梶尾 みどり氏 2007年 法文学部卒業／元 (株)鹿児島放送 (KKB) アナウンサー

中尾 文哉 氏 2009年 法文学部卒業／豊田通商(株) モジュール事業部

新地 貴浩 氏 2010年 理工学研究科修了／(株)SHINSEKAI Technologies コミュニティグロース事業本部

興梠 瑠香奈氏 2020年 農学研究科修了／サントリー食品インターナショナル(株)商品開発部

2023年12月2日（土）、卒業生によるキャリア支援セミナー「きばいやんせ、鹿大生2023！」（主催：鹿児島大学キャリア形成支援センター、協力：鹿児島大学同窓会連合会）が開催されました。9回目となる今回は、4年ぶりに対面方式で開催され、ゲスト（先輩）スピーカーである卒業生5人と、82人の在学生が参加いたしました。

冒頭では、新留康郎キャリア形成支援センター長による開会のことばに続き、佐野輝学長からビデオメッセージで、ゲストスピーカーへの御礼や本セミナーの立ち上げの経緯、過去のセミナーにおける参加者の反響について述べられるとともに、「ゲストスピーカーの熱い思いに直に触れることで一層大きな刺激を受け、参加学生にとって大変貴重な機会となることを期待します」との挨拶がありました。引き続き、新留康郎キャリア形成支援センター長からゲスト5人の紹介がありました。

まず第1部の全体セッション1では、各ゲストから自己紹介を兼ねて学生時代の活動や現在の仕事内容等についての紹介、参加学生に向けてのアドバイスがありました。各ゲストの自己紹介後、パネルディスカッション形式で、学生からの事前質問への回答がありました。

第2部では、ゲストを3つのグループに分け、座談会が15分ごとの3交替で行われました。座談会は、参加学生とゲストスピーカーとの質疑応答形式で行われ、「人脈の広げ方」、「コミュニケーション力の向上方法」、「1～2年時の就職活動」等、参加学生からの積極的な質問により、活発な交流が行われました。

第3部の全体セッション2では、各ゲストから本日の感想や、参加学生に向けて、「自分がやりたいことはとりあえず挑戦し、失敗も経験として活かしていただきたい」等のアドバイスや応援メッセージが述べられました。

その後、梶尾みどり氏、新地貴浩氏、興梠瑠香奈氏に対して新留康郎キャリア形成支援センター長の代読により「鹿児島大学名誉キャリアサポーター」の委嘱が行われ（木村氏、中尾氏は委嘱済み）、ゲストスピーカーへの謝辞が述べられました。

最後に、同窓会連合会の富永茂人会長から、5人のゲストスピーカーへ感謝の言葉が述べられ、参加学生に対して、「今回はいい経験をされたと思います。本セミナーでゲストスピーカー等との繋がりができたことで同窓意識を醸成していただき、同窓会も是非盛り上げていただきたい」との挨拶があり、本セミナーを締めくくりました。



「きばいやんせ、鹿大生2023！」の様子（左=佐野学長の挨拶、右=富永会長の挨拶）

（文責 同窓会連合会事務局）

第43回鹿児島大学OB・OGゴルフ大会の開催

全国総合大学でも珍しい恒例の全学部鹿児島大学OB・OGゴルフ大会は、昨年も全国のOB・OGが参加して実施され、成績発表、表彰式も盛大に開催されました。昨年の42回大会は、歯学部が3回目の優勝を果たしました。

この大会は、第1回より鹿児島大学長が会長になり鹿児島大学の大きなイベントの一つです。全国からたくさんの同窓生のご参加をお待ちしています。

今年の開催は

◎日時：令和6年（2024）4月14日（日）

◎場所：鹿児島蒲生カントリークラブ（0995-52-0381）

（セルフプレー又はキャディ付OK、各学部実行委員までお問い合わせ）

◎予定参加人数：300名

詳細は南日本新聞紙上に複数回掲載予定

◎学部別実行委員

水産学部：TEL 286-4080 FAX 286-4080（鬼丸）

農学部：TEL 282-2266 FAX 282-2266（平）

共同獣医学部：TEL 254-7947 FAX 254-7947（鶴田）

医学部：TEL 812-1133 FAX 812-1677（上野）

法文・理学部：TEL 254-7111 FAX 254-7101（青木）

教育学部：TEL 296-9602 FAX 296-9603（児玉）

歯学部：TEL 286-6480 FAX 286-4484（濱崎）

工学部：TEL 285-7032 FAX 285-7032（淵田）

本部職員：TEL 285-7715 FAX 285-7721（西元）

◎同窓会連合会事務局（総務部総務課基金・渉外係）

TEL 099-285-3101 FAX 099-285-3854（平日8：30～17：15）

Email:kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

（同窓会連合会のホームページもご覧ください<https://www.kagoshima-u.ac.jp/rengoukai/>）

※この大会は参加者の参加費から43年前の第1回から毎年、鹿児島大学へ賛助金を贈り続けて学生を支援しています。



鹿児島・蒲生カントリークラブ、桜島コース1番ホール

（大会実行委員会）

鹿児島大学同窓会連合会事務局並びに各学部同窓会の連絡先

鹿児島大学同窓会連合会事務局

〒890-8580
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学総務部総務課広報・渉外室基金・渉外係
TEL 099-285-3101 FAX 099-285-3854
e-mail kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学歯学部同窓会

〒890-8544
鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1
鹿児島大学歯学部内
鹿児島大学歯学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-264-1600
e-mail kashidousou@po2.synapse.ne.jp

鹿児島大学法文学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-30
鹿児島大学法文学部同窓会事務局
TEL 099-250-3211 FAX 099-285-3573
e-mail dousoukai@leh.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学工学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-40
鹿児島大学工学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-3494
e-mail kadai.eng.dousoukai@gmail.com

鹿児島大学教育学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-20-6
鹿児島大学教育学部事務局内
TEL・FAX 099-285-7718
e-mail dousou@edu.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学農学部あらた同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学農学部あらた同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-8537
e-mail arataikai@aratadousokai.org

鹿児島大学理学部同窓会南明会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-35
鹿児島大学理学部同窓会事務局
TEL 099-285-8925
e-mail dosokai@sci.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学水産学部同窓会魚水会

〒890-0056
鹿児島市下荒田4-50-20
鹿児島大学水産学部同窓会魚水会事務局
TEL・FAX 099-286-4080
e-mail gyosui@fish.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学医学部同窓会

〒890-0075
鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局
TEL 099-275-6881 FAX 099-265-9784
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-8719
e-mail k1330977@kadai.jp

鹿児島大学 同窓会連合会

〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学総務部総務課広報・渉外室基金・渉外係
TEL 099-285-3101 FAX 099-285-3854
e-mail kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

印刷 株式会社鹿児島新生社印刷
〒891-0132 鹿児島市七ツ島1-3-21
TEL 099-261-0111 FAX 099-261-3100
e-mail kagoshima@shinsei-p.co.jp

